

第 97 回 東葛しぜん観察会

鎮守の森から田んぼへぶらり

伊藤敏子（船橋市）

日 時：2013 年 11 月 10 日（日）9 時 30 分～11 時 30 分

場 所：大原大宮神社から実籾本郷公園（習志野市）

天気：曇り

参加者：一般 13 名、指導員 15 名

担当指導員：伊藤敏子 勝股政雄 林 信子 宮川榮子

電車の遅れとキャンセルがあり、定刻の時間を少し過ぎてから開始。一般参加者の 3 班と指導員班の 4 グループに分かれ、実籾駅から大原大宮神社に向かって出発。途中神社の森とその崖下の家々、実籾駅方面の地形を見て、現在家が建っている所を見ながら、40～50 年前までは田んぼであったことを地図で知ることができた。大原大宮神社の鳥居脇のオガタマノキ、習志野市名木百選の太くて立派なクロマツと抱き合うようなアカガシに迎えられ神殿へ。この神社は実籾本郷で 1124 年に創建され、徳川家康の御成街道完成と共に鎮座されたと縁起に記されている。イザナギ、イザナミの二神が祀られている。そして夫婦タブノキの樹姿は素晴らしく、この木の枝や葉には、粘液となる成分が含まれ、昔から線香の糊料に使われていたことからビンに水と葉を入れ、ネバリを試してみせました。ナギとイヌマキ、サカキとヒサカキの葉で違いを観察。ムクロジの根元あたりでは実を拾って、水入りペットボトルに入れ、振ると泡立つことを経験してもらい、実にはサポニンが含まれ昔は洗剤代わりに使っていた先人達の知恵に感服する。

実籾公園入口ではちょうどシキミに実がついており、中華料理に使う「八角」と瓜二つなのにシキミの実は猛毒と知り驚いた。風がフアッーと甘い香りを運んできた。カツラの落葉を拾い匂ってみる。プリンのカラメルを思わせる香りが…。香りを背にシロダモ、ヤブニッケイを見つけ、シロダモの裏は白くロウ質があることの実験、葉裏に火を近づけるとロウ質がとけて黒くなっていく様子を見て、なるほどと感心。シラカシ、アラカシ、スダジイの間を歩いて鵜田家へ。鵜田家の門をくぐるとムベのワインレッドの実がとてつもなく美しい。綺麗！ 美味しそう！ と歓声上がる。庭園も江戸風に仕立てられ、珍しいタギョウショウ、シロマツも見られた。東日本大震災では家の周りの地盤が 40～50cm 程沈下したとの話で、昔はこの土地が谷津田で地盤が緩かった証しである。クヌギ、クマシデ、イヌシデ、アカシデの実や葉を観察、小高い四阿へ、そこから南に広がる田んぼを見ることができた。前日の悪天候の予報、当日の朝の大きな地震とアクシデントに見舞われたが、参加者に喜ばれた楽しい観察会が決行できたことは、とても幸いでした。



境内の夫婦タブノキ、田んぼと水辺のダイサギやカルガモグループ